

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	東上野乳児保育園（公設民営）
施設所在地	台東区東上野4-22-3
法人名	（運営）社会福祉法人 康保会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

0歳児：からだ（体）

<テーマの設定理由>

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）

日々の生活の中で、0歳児は寝返り・はいはい・つかまり立ちなど、自分の身体を使った動きに積極的に挑戦する姿が見られ、身体そのものへの興味関心が高まっている。こうした発達の姿を踏まえ、園内では子どもが安心して身体を動かしたり、姿勢を支えながら過ごせるスペースを整えており、発達に応じた環境づくりがしやすいことが特徴としてある。これらの子どもの姿と園の環境を生かし、「からだ（体）」を探究活動のテーマとして設定する。

2. 活動スケジュール

7～8月這う、ハイハイ
9月揺れる、回る
10月乗り越える、回す
11月くぐる
12月のぼる、ひっばる
1月つかむ、ころがす
2月なげる、ける
3月持ち上げる、並べる

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

アスレチック遊具（タイニークライマー）、センサリーマット、ボール、コマ（ミニゴマトップ）、ソフト積み木

- ・室内環境を整え、からだ（全身）を動かしながら遊べるコーナーを常設した。
- ・用意した道具によっては、常設ではなく活動日に合わせて設置した。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

個々の発達に合わせた環境を構成する。坂道を使ったハイハイでの遊びやコマを使った体のバランスを感じる遊び。歩行が安定してくると段差を使った環境を展開し、立った姿勢での探究活動に注目する。また、ボールを使って転がす、投げる、蹴るなどの遊びを通してさらなる探究活動を行う。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

初めは坂道を使ったハイハイでの登り下りを中心に行い、腕や足の使い方、体のバランスを感じながら繰り返し取り組む姿が見られた。歩行が安定してくると子どもたちの関心は段差へと広がり、立った姿勢で上り下りをしようとするなど、よりダイナミックな動きへと発展していった。また、大きなコマに乗ってバランスを取ろうとする姿も見られ、自分の体の動きや傾きに気付きながら遊ぶ姿が見られた。他児の様子を見て「自分もやってみたい」と挑戦する様子もあり、物による環境だけでなく人の影響を受けて探究活動が広がっていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

探究活動では、坂道でのハイハイから段差の上り下り、さらに不安定な遊具でのバランス遊びへと、子どもたちの動きが発達に応じて段階的に広がっていった。日常生活の中で見られる動きの延長として、自ら身体を使おうとする姿が多く見られ、「からだ」への興味関心が遊びを通して深まっていることが感じられた。また、坂道や段差といった環境の中で、自分の体の使い方やバランスに気付きながら繰り返し挑戦する姿が見られ、環境設定が主体的な探究を引き出していることを実感した。さらに、他児の姿に刺激を受けて「やってみたい」と行動する様子から、人的環境も活動の広がりに大きく関わっていることに気づいた。からだをテーマにした探究活動を通して、発達の連続性を踏まえた環境構成と、安心して身体を動かせる場の重要性を改めて感じた。今後も一人ひとりの発達や興味に応じた環境を工夫し、からだの探究を深めていきたい。